

MTS Japan Newsletter No.32

2012年3月

~~~~~

|                                                            |   |
|------------------------------------------------------------|---|
| 半世紀&半世紀 MTS 日本支部長 酒匂敏次                                     | 1 |
| Jerry Boatman MTS 会長との Roundtable Meeting を 2 月 10 日(金)に開催 | 2 |
| 12 水中ロボットコンベンション in JAMSTEC、3/10-11 に開催                    | 4 |
| OCEANS 12 MTS/IEEE Yeosu、5 月 21-24 日に韓国麗水で開催へ              | 5 |

~~~~~

半世紀&半世紀

MTS 日本支部長 酒匂 敏次

長く困難な一年度がまもなく終わろうとしている。海と社会、海と人間、海と日本について深く考えさせられた一年間であった。この間、国際社会からの支援、激励も数多く寄せられているが、その中には M T S 関係者および関係組織からのものも含まれている。改めて現代の“絆”ネットワークの地球規模の広がり、に想いを馳せるとともに、身の危機管理にも地球への責任が含まれていることを痛感する。

復興の計画作りが始まっている。事業としての復興もこれからスピードをあげて進めていかねばならない。会員諸氏の貢献が期待されている機会も多いことと思われるが、御健闘、御健勝を祈る。

ところで、今年 M T S は齢 5 0 を数える。数えの 5 0 だから満年齢でいえば 4 9 歳ということになる。来年は創立 5 0 周年を迎えるということで、すでにワシントンの本部が中心になって、昨年からの記念事業の準備が始まっている。学会創立の 1 9 6 3 年とそれに続く 1 0 年間は、まさに創業の 1 0 年間であった。海洋は宇宙、原子力などと並ぶビックサイエンスの雄であった。本学会のリーダーの出身母体も、鉄鋼、重機、化学、電気、通信輸送等々主要産業分野のトップ企業を網羅していて、海洋産業への期待の大きさを象徴しているようであった。

それに続く 4 0 年、オイルショック、冷戦終結、地球環境課題の登場等々が、海洋科学技術分野の数々の偉業達成とあいまって、海洋コミュニティの構成と

性格を変化させてきた。海洋の科学技術、社会、経済、環境、教育等々の広い分野をカバーする独立の学会としてのMTSは、今日、会員数においても、認知度や影響力においても、世界をリードする存在である。

今年に入ってから、21世紀中葉における日本の人口推計値等が発表されるとともに、それに伴う社会、経済等の変貌についての議論が盛んになりつつある。資源、食糧、水、環境等々、グローバルな課題の議論には海洋力の評価が欠かせない。半世紀後の海洋コミュニティの実力と貢献に期待するところが大きい。最近のMTS役員会等での議論の大きな柱は育英事業である。次世代の海洋力をいかにしたら確保できるか、真剣な取り組みが始まっている。これからの半世紀を構想する、今年をそんな年にしても良いのではなからうか。

Jerry Boatman MTS 会長との Roundtable Meeting を 2 月 10 日(金)に開催

MTS 会長の Jerry Boatman 氏が 2 月に韓国を中心にアジアを歴訪される情報を 1 月に入手したので、早速、会員各位への講演会の開催準備に入りましたが、準備期間が短かったほか広めの会場の確保ができなかったため、今回は、10 名程度の Roundtable での Meeting となりました。参加の呼びかけをしたのは、(独)海洋研究開発機構 (JAMSTEC)、テクノオーシャン・ネットワーク (TON)、水中ロボコン推進会議、海上自衛隊海洋業務隊の 4 機関です。当日は、JAMSTEC 東京事務所の会議室をお借りして、最初に日本支部の酒匂 MTS 日本支部長から歓迎の挨拶の後、以下のプログラムで Meeting が開催されました。

1. MTS の最近の活動状況 (Boatman 会長)
2. MTS 日本支部の活動状況 (中原事務局長)
3. JAMSTEC の最近の活動状況 (堀田 JAMSTEC 理事、百留研究員)
4. Techno-Ocean2012 の準備状況 (堀田 TON 理事)
5. 水中ロボコン活動状況 (東大生研、巻先生)
6. 海上自衛隊海洋業務隊の活動状況 (佐藤司令)

まず、Boatman 会長から MTS の活動についての、およそ次のような説明がありました。現在メンバーの国籍は 37 カ国に及んでおり、OCEANS 等の国際会議の開催支援を積極的に行い、30 の海洋工学専門分野の分科会を開催している。また次世代の海洋工学を担う若者に毎年 20 万 USD 以上の Award があり、日本からの応募を期待している。さらに MTS の最近のハイライトや今後の方針について述べられました。MTS は 2013 年に設立 50 周年を迎えるので、その準備と共にさらなる活動を計画していることや、特に会員相互の連携を密にしたいとの意向も示されました。

日本支部の活動状況報告では、Oceans 参加者の募集及び現地での情報交換、Techno-Ocean の支援、水中ロボコンの支援に加え、昨年 9 月には東日本大震災で特に海洋で積極的に支援活動した、海上保安庁、海上自衛隊、JAMSTEC を一堂に会した講演会を開催し、参加者に大きな感銘を与えた件を報告しました。

次いで、JAMSTEC の活動状況では堀田理事より組織全体の概要を説明され、

続いて海洋工学センターの活動、時に新しい船舶、ROV、AUVの開発状況について百留研究員からの報告がありました。

Techno-Ocean 2012の準備状況については、Techno-Ocean Network 堀田理事より、現況の準備状況報告に加え、国外からの積極的な参加とともに、本部より支援願いたいと付け加えました。

水中ロボコン活動状況は東大生産技術研究所巻先生より、これまでの活動状況説明で、参加者のみならず見学者の増加で活発で有意義な活動が展開されている事が強調されました。

海上自衛隊の活動状況では、技術研究所で開発された技術が実際の海洋で試験される状況など、興味ある報告がありました。

今回は少人数のMeetingになりましたが、その内容はきわめて濃く、会員各位に直接お聞かせしたいことがらも多々あり、少々残念なところではありますが、ホームページを通じて周知、広報に努めたいと思います。Boatman 会長も日本の会員に向けて「皆様に宜しく」との言葉を残されたほか、5月開幕の韓国・麗水における海洋博覧会に併せて開催のOCEANS12国際会議の期間中での再会と、MTS 本部・韓国支部・日本支部の三者会合を企画するので、支部関係者との再会を楽しみにしているとのことで、Meetingを終了しました。

<参加者> (敬称略)

MTS 日本支部：酒匂支部長、宮崎副支部長、高川トレジャラ、中原セクレタリー、大西（海産研研究員）

JAMSTEC：堀田理事、磯崎海洋工学センター長、百留（ひやくどめ）海洋工学センター

テクノオーシャン・ネットワーク：堀田理事（前出）

水中ロボコン推進会議：巻東大生産技術研究所

海上自衛隊海洋業務部：佐藤司令



(写真左) 前列左：Jerry Boatman MTS 会長、同右：酒匂日本支部長。後列左から中原、百留、宮崎、高川、佐藤、巻、磯崎、大西)

(写真右) Roundtable Meeting の様子。背後の壁の左は本部から寄贈された MTS Japan Section の垂れ幕、右は旧ロゴのバナー]

12 水中ロボットコンベンション in JAMSTEC、3/10-11 に開催 ～ ～ ～ MTS 日本支部も共催。8 チーム、約 160 名が参加 ～ ～ ～

去る3月10日(金) 11日(土)、JAMSTEC横須賀本部の潜水訓練プール(開会式、水槽デモ)、本館1階大講義室(受付、プレゼンテーション、表彰式)、本館1階セミナー室(審査、休憩)にて、標記の水中ロボコンが開催された。

このイベントは、水中ロボコン推進会議、(社)日本船舶海洋工学会、IEEE/OES 日本支部、MTS 日本支部、(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC)、テクノオーシャン・ネットワーク(TON)の共催、東京大学生産技術研究所海中工学国際研究センター、東京大学海洋アライアンス後援、アクアモデラーズ・ミーティング協力、という実施体制で取り組まれたもので、フル参加が8チーム、デモ参加が1チーム。参加者総数は、見学者も含めて、両日合計で延べ約160名に上った。詳細は次のURLを参照いただきたい。(<http://aquarobo.com/index.htm>)

なお、審査の結果、優勝は大阪市立大学チーム(大阪市立大学)、準優勝はKPC6(九州職業能力開発大学校)、第三位はILabird(九州工業大学)で、その他に、JAMSEC 理事長賞が東工大附機械科(東京工業大学附属科学技術高等学校)に与えられた。



(写真：水槽デモの様子)



(左；優勝)、



(中：準優勝)



(右：第三位)

(出典：水中ロボコンinJAMSTEC12報告書)

ちなみに、毎年2回開催しているこのイベントは、秋に神戸で開催するものを「水中ロボットフェスティバル(水中ロボフェス)」と呼び、春に主としてJAMSTECで開催するものを「水中ロボットコンベンション(水中ロボコン)」と称している。なお、前者の、神戸開催のもののうち、2年に一度開催される

テクノオーシャンの際には、その併催行事として実施しており、「水中ロボット競技会」と呼んでいる。後者の場合は、たとえば今年の3月開催のものは「12水中ロボットコンベンション in JAMSTEC (水中ロボコン in JAMSTEC)」としている。ただし、2012(平成24)年度からは同年度内3月春の開催を夏の8月の土曜・日曜開催に変更することになっており、今夏にも開催予定で準備される予定。

**OCEANS 12 MTS/IEEE Yeosu、5月21-24日に韓国麗水で開催へ
= = = 麗水海洋博は5/12から3ヶ月、6/29 - 7/1にJAMSTEC WEEK = = =**

周知のように、OCEANS 国際会議は、毎年秋にアメリカ本土で開催するほか、奇数年には OCEANS Europe を、偶数年には OCEANS Asia/Pacific を同年内に開催しているが、2012年の今年の OCEANS Asia/Pacific は、韓国の麗水 (Yeosu) で開催される海洋博覧会(5/12から3ヶ月間)に合わせて、OCEANS 12 MTS/IEEE Yeosu が、5月21-24日に現地で開催される。

例年のように、MTS 日本支部としては、秋のアメリカでの OCEANS 国際会議には現地集合方式の視察団を編成する予定であるが、この5月の韓国・麗水での会議も、近隣国での開催でもあり、できるだけ多くの参加をお願いしたい。また、Boatman 会長との Roundtable Meeting の記事でも紹介しておいたが、OCEANS 会議の最後の日に、MTS 本部・韓国支部・日本支部の合同会議が予定されており、日本支部の活動などをプレゼンし、交流を深める予定となっている。

ところで、JAMSTEC が、麗水海洋博覧会の期間中、6月末から7月初旬の週末に JAMSTEC WEEK を設け、「しんかい6500」とその母船「よこすか」を現地で一般公開することとなっている。

麗水海洋博覧会の website : <http://www.expo2012.kr/main.html>

(日本語バージョンもあり)

OCEANS 国際会議の website : <http://www.oceans12mtsieeeyeosu.org/>

(参加登録は online で、割引料金の早期登録受付は4月9日(月)まで)

MTS では、アメリカにおける海洋科学技術、政策産業に関する最新情報や研究助成金募集案内など非常に有用な情報を提供しており、OCEANS 国際会議の参加登録料も会員価格になります。

是非、入会ならびに会員資格の更新をお願いいたします。

MTS 本部の website <https://www.mtsociety.org/home.aspx>

MTS 会員登録関係 <https://www.mtsociety.org/membership/new/add.aspx>

MTS 日本支部事務局

(c/o(社)海洋産業研究会、Tel : 03-3581-8777、e-mail アドレス : mts@ab.inbox.ne.jp)
